

+病気と怪我の状況

【病気】

病気名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
流行性角結膜炎				2									2
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）													
水痘症（水ぼうそう）													
インフルエンザ						33	2			1	3		39
マイコプラズマ肺炎				1			1	1	1				4
咽頭結膜熱（プール熱）						1							1
りんご病													
腸炎		1	1	6			1				1	1	11
RSウイルス			1	4									5
アデノウイルス感染症				2					1				3
溶連菌感染症						1	1						2
手足口病					3		1						4
ヘルパンギーナ													
とびひ													
ヒトメタニューモ				2									2
クループ													
その他（川崎病）					1					1			2
”（帯状疱疹）										1			1

感染症はインフルエンザ A 型が 9 月に流行した。うがい、手洗い消毒をまめに行い、家庭でも対策の協力をお願いし感染症対策をした。また、次亜塩素酸 空間除菌脱臭機『ジアイーノ』を稼働させ、感染症対策に努めました。保育室での衛生管理対策としては酸性水、強酸性水、スーパー次亜水を使用しての拭き掃除、嘔吐、汚物の処理等もマニュアルに沿って実施しました。また他の子への感染防止のためにも感染症に罹患した場合の登園停止期間の周知を保護者、職員にも促し感染症の蔓延を防止しました。

※ 2 月に入り、新型コロナウイルスが蔓延し、家庭保育の協力要請や、感染症予防についての家庭への手紙の配布、検温、園での室内消毒、徹底した手洗いを行う。細目に空気の換気や脱臭機を稼働させて、園でも感染症予防に努める。また、体調不良や微熱、咳が多い園児にも家庭保育の協力をお願いする。

【園児のけが事故発生の状況】

2歳児（女児）：2歳児保育室にて、午睡後トイレに排泄を促そうとして手を引っぱった際、急に痛みを訴え泣きだす。一定の角度から手を動かさずにいたので園長に報告し病院受診をする。肘内障と診断され手を動かした際、元に戻り痛みもなくなる。

2歳児（男児） 2歳児保育室にて午前10時頃、2歳児保育室内を走り回りその際、他児とぶつかり目をぶつける。当日は目が赤く様子を見る。保護者にケガの様子を伝え帰園。翌日、眼球が赤くなっていた為、保護者に連絡し病院受診をお願いする。経過観察で大丈夫だと病院で伝えられ、午前中には赤みもひき問題なかった。

5歳児（男児）新園舎の園庭にて午後17時頃、お迎えを待つ間固定遊具の登り棒を登ってはジャンプを繰り返す、保育士が度々注意をしていた際、ジャンプの着地に失敗し、右肘を強打。強打した右腕を自分で押さえしばらく起き上がれなかったので、園長に報告し、様子を伝え視診してもらう。肘を曲げる際痛がるので、親に連絡し病院受診してもらう。病院で肘内障と診断。整復してもらい完治する。

【健康管理】

歯科検診 前期→6月10日 後期→11月25日 嘱託医 片嶋弘貴 （Kデンタルオフィス）

内科検診 前期→7月11日 後期→1月23日 嘱託医 浜端宏英 （アワセ第一医院）

尿検査 前期 6月6日～7日 後期 11月7日～8日（未提出児は後日設定する）

食後の歯磨き、緑茶によるうがい

手洗いの徹底に努める